

淡路から見た明石 ～淡路市岩屋の石屋神社春祭り～



「明石とその周辺の歴史・文化探訪」No. 9(7月24日)の明石浦のおしゃたか舟で紹介しましたが、明石浦の岩屋神社は淡路の岩屋から神を迎え祀っていると伝えられています。(写真 明石浦から岩屋方面)



昔から、明石と淡路の岩屋とのつながりは深く、明石海峡大橋ができるまでは、フェリーや汽船が淡路と本州をつなぐ重要な交通手段でした。淡路の北端、松帆の浦から真北に明石港があります。現在も明石港と岩屋港を結ぶ「ジェノバライン」が乗客、自転車、二輪車を運び重要な航路となっています。

5月初旬に岩屋の石屋(いわや)神社の春祭りが行われます。明石の対岸で行われている春祭り。淡路から明石方面はどのように見えているのでしょうか。



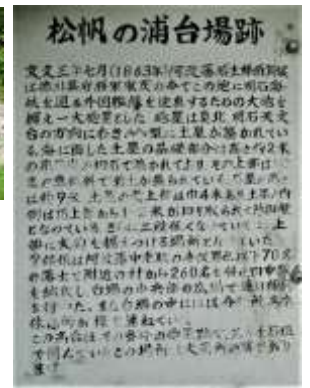
石屋神社は岩屋港の南にあります。神社からは眼下に海がひろがり、神戸方面が一望できます。5月の春祭りでは、神輿が境内で練った後、風光明媚な絵島、ジェノバラインの着く岩屋港、岩屋の街中、明石海峡大橋の下の道の駅、そして御旅所である松帆の恵比須神社まで、神輿が巡行します。



御旅所の松帆の恵比須神社からは、明石海峡、明石の町、そして魚住や二見、加古川方面まで、一望できます。

○松帆の浦

藤原定家の和歌： 来ぬ人を
松帆の浦の 夕風に 焼くや
藻塩の 身も焦がれつつ



台場跡： 幕末、開国を迫る外国船に備えて砲台が築かれました。文久3年(1863)7月、幕府の命により、13門の松帆砲台が造られました。対岸の舞子にも砲台が造られました。帰路は同じルートを通り、夕刻に石屋神社に戻ってきます。